

# 平成30年度高槻市男女共同参画フォーラム実施報告

【開催日】 2月16日（土）午後1時30分～午後4時

【会 場】 クロスパル高槻8 F イベントホール

平成30年度は《改訂》高槻市男女共同参画計画の具体的施策のひとつである「男女で担う家庭責任」をテーマに、第1部基調講演には瀬地山角さん（東京大学教授）をお迎えし、「男の家事が社会を救う！～楽しく学ぶジェンダー論～」と題して、自らの子育て経験をもとにお話いただきました。第2部は会場からの質問に瀬地山さんと、天野さん（高槻スマイルパパネットワーク代表）にお答えいただきました。講演の様子を紹介します。

## 第1部 基調講演「男の家事が社会を救う！～楽しく学ぶジェンダー論～」

### 「ママがいい！」に負けへん！

瀬地山さんはお子さんが小さい頃、講演会等で東京を離れるときは、お子さんを連れて出かけたそうです。はじめは「ママがいい！」と泣く子どもも、パパといえることに慣れれば、ご飯も食べるし、パパを頼るようになる、などとユーモラスな語り口で会場を一気に引き込みました。「子どもを産む以外、男に出来ないことはない」と、自ら実践されたエピソードを、笑いとともに紹介いただきました。



### 男の家事が「いのち」を救う！

日本の共働き世帯のうち6歳未満の子を持つ男性の育児関連時間は49分に対して女性は3時間45分（週平均の1日あたり）と、およそ4倍の差があり、もはや個々の家庭の問題ではなく、「社会的」に問題にするべきレベルだ、と瀬地山さんは強調します。

瀬地山さんは、このような男女の子育てに関する時間の差を「社会的」な問題としてとらえるため、「植林をしない林業者」と「植林をする林業者」に例えてお話しされました。「植林をしない林業者」は、植林をせずに木を切るだけの価格で販売できるため、「植林をする林業者」に比べて安く木を売ることができます。人々が「植林をしない林業者」から購入を続ければ、「植林をする林業者」は倒産し、やがて山に木がなくなり、大規模水害が起こるなど「社会的」な問題が起こります。

この例えを「子育て」に当てはめると、「植林をしない林業者」は「育児をしない人」（主に男性）、「植林をする林業者」は「育児をする人」（主に女性）になります。男性は仕事のための時間が潤沢にあるように見え、女性のみが育児のために短時間勤務をしたり、子どものために急に仕事を休んだりするように見えるため、企業は育児をしない男性ばかりを雇おうとしているという現状を説明されました。将来的な少子化問題などを見据えて、「育児をする人」が働きやすい社会を作ることが大切です。瀬地山さんは、男性も女性も働きながら家事・育児を担うことができる環境になれば、女性は結婚・出産後も正社員として働きやすくなり、男性は過労死や自殺の原因となるような命をすり減らす働き方をしなくて済むようになると話されました。

講演では「水曜日の保育園のお迎えと夕飯作りはパパの役割と決める」、「せめて『忌引き休暇』と同程度に『男性の産休』を普及させる」などの提言がありました。

説得力のあるデータや数値等を示しながらの講演は非常にわかりやすく、最後には来場者の心に響く映像によるメッセージをいただき、満足度の高い講演となりました。